

IRI

インスリンキット

糖尿病のある種の臨床型では、自己のインスリン分泌能がほとんど見られない、あるいは不全状態の場合があり、結果高血糖をきたします。

経口糖負荷試験（OGTT）などにより経時的に血中 IRI 値を測定し、インスリンの分泌状態が診断されます。

逆に空腹時低血糖症の場合には、原因鑑別にインスリン測定は重要で、インスリノーマ（ランゲルハンス氏島腫瘍）の診断に用いられます¹⁾。

1) 永田 他、内分泌機能検査の実際 インスリン・C-ペプチド系、ホルモンと臨床、43夏季増刊号、95-102(1995)

仕様

試薬構成

免疫反応試薬	Eテスト「TOSOH」II (IRI)	(100テスト/箱)
標準品	Eテスト「TOSOH」II (IRI) 標準品セット	(6濃度、各2本/箱)
検体希釈液	Eテスト「TOSOH」II (IRI) 検体希釈液	(4mL x 4本/箱)

対象検体種 血清、ヘパリン血漿、EDTA血漿

測定時間 免疫反応時間 10分（1ステップサンドイッチ法） 結果報告 約20分

測定範囲 0.5～320 $\mu\text{U}/\text{mL}$

健常人参考値 1.1～17.0 $\mu\text{U}/\text{mL}$ (社内データ)

※本測定系において、ヘモグロビンそのものによる影響はありませんが、溶血により赤血球中の分解酵素が検体中に混入すると、インスリンは分解されます²⁾ので、溶血検体では正しいデータが得られません。溶血のない検体を試料としてください。

※インスリン自己抗体保有者の検体では、自己抗体が測定に影響を与える場合があります。

2) 千葉 他、溶血検体のインスリン値低下現象の解析、衛生検査、35(5), 715-719(1985)